

1年 通年	国語総合	履修形態	全員履修 (3・4修制)
		履修単位	2単位
科目目標		教科書	国総361高等学校 改訂版 標準国語総合(第一)
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。		副教材等	なし
		履修条件	必修科目 原則として未履修の場合、現代文Aの履修は不可

学習内容

- ・思考力や想像力を養い、心情を豊かにするために、古今東西の作品を幅広く学習する。
- ・社会で通用する言語能力を養うために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に重点を置いた学習を行う。

評価方法

定期考査、提出物、出席状況、授業態度等を総合的に判断し評価する。

学習上の留意点

忘れ物をせず、積極的に授業に参加すること。ノートをしっかりとること。

授業計画(学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント)

期	月	学習内容(単元名)	学習のねらい・目標
前期	6	【随想(一)】 ・世界は謎に満ちている	【随想】 ・筆者の提示する謎について考え、周囲の世界に対して探究心を持つきっかけにする。 ・随想という文章の特徴を知る。
	7		
	8	【評論(一)】 ・水の東西	【評論】 ・論理的な文章の展開や構成を理解する。 ・筆者の主張について理解し、それを批判する力を養う。
後期	9	【古文入門】 ・古文を読むために①②	【古文】 ・歴史的仮名遣いを理解し、古文の音読に親しむ。 ・古文の読解に慣れ、適切な口語訳ができるようになる。 ・内容を把握し、古典作品に親しむ。
	10		
	11	【古文に親しむ】 ・兎のそら寝	【漢文】 ・漢文を読むための原則を知り、訓読に親しむ。 ・漢文の読解に慣れ、内容を把握できるようにする。
	12	【漢文入門】 ・漢文を読むために①②③	
	1	【小説(二)】 ・他人の夏	【小説】 ・小説の面白さを知り、鑑賞のしかたを学ぶ。 ・登場人物の心情や価値観を理解し、自分とは異なる環境で生きる人間に共感する力を養う。
	2		
3			

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
評価の内容	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字の読み書きや言葉の意味を習得し、活用することができている。	目的や場に応じて効果的な話し方や聞き取り方ができ、また文章を書く上で効果的な表現方法や文章構成を身につけ、目的や意図に応じて工夫しながら書いている。	文章を通じて筆者の主張や思いを的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
評価方法	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査	・感想文などの作成した文章 ・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査

学習サポート

全員必修の科目で、2年次の「国語総合」とあわせて4単位修得できます。
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、社会に通じる言語能力を養います。
定期考査のほか、出席状況や授業態度も評価に入れ、授業ノートやプリントは期限内の提出が必要です。

1年	前期	ベーシック数学	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	なし
中学数学の復習を通して、数学Ⅰの内容にスムーズに入れるようにする。			副教材等	高数へのカウントダウンベ シック（実教出版）
			履修条件	特になし
学習内容				
①正の数・負の数の加減乗除 ②分数の加減乗除 ③指数の計算 ④整式の計算 ⑤因数分解 ⑥平方根の計算 ⑦1次方程式・連立方程式 ⑧2次方程式 ⑨三角形を中心とした図形の問題 ※実用数学技能検定「数検3級」に準じた内容の学習をします。				
評価方法			定期考査、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断し評価する。	
学習上の留意点			授業を聞き、ノートをとる。そして必ず自分で問題を解いてみる事。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前 期	6	正の数・負の数の加減・乗除 分数の加減・乗除 文字式の計算	・計算力を高める。
		整式の計算 単項式の乗除 多項式の計算（式の展開） 因数分解	・指数法則を理解し単項式の乗除が出来るようにする。 ・展開の公式を暗記し、式の展開が出来るようにする。 ・因数分解の公式を暗記し、因数分解をする。
	8	平方根とその計算 1次方程式とその解き方 連立方程式とその解き方 2次方程式とその解き方	・平方根の計算ができるようになる。 ・1次方程式を解けるようになる。 ・連立方程式を解けるようになる。 ・因数分解を利用して、2次方程式が解けるようにする。 ※解の公式による解き方も練習する。
		三角形	・三平方の定理を理解する。 ・三平方の定理を利用し、図形の辺の長さを求める。
	9		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	数と式、三角形についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理したりできる。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したり、適切な解法を選択することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりできる。
評価方法	学習状況の観察 ワークノートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ワークノートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ワークノートの記述 定期考査の結果

学習サポート

高校で数学を学ぶ上で必要な知識を中学校での数学の復習を通して身につけます。主に計算力を高めることを目的としていますので、授業時間には各自の演習時間を作ります。また、その時間を利用して必ず自分で問題を解いてもらいます。

2 年	通 年	数学 I	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	数 I 323 高校数学 I 新訂版（実教）
1 年次後期で因数分解・平方根・2 次方程式を学んだ。これらを利用して、2 次関数・三角比の問題が解けるようにする。			副教材等	ステップノート数学 I （実教）
			履修条件	特になし

学習内容

2 次関数	
・ 2 次関数のグラフをかき、2 次関数のグラフを利用して最大・最小の応用問題や 2 次不等式を解く。	
三角比	
・ 鋭角の三角比において、三角比相互の基本的関係とその応用を学ぶ。	
・ 三角比を利用して図形の面積を求める。	
データの分析	
・ 統計の基本的な考え方を理解し、それをういてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	
評価方法	定期考査、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断し評価する。
学習上の留意点	授業を聞き、ノートをとる。必ず自分で問題を解いてみること。

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前 期	6	2 次関数 ・ 1 次関数のそのグラフ ・ 2 次関数とそのグラフ ・ 2 次関数の最大値・最小値 ・ 2 次関数のグラフと 2 次方程式 ・ 2 次関数のグラフと 2 次不等式	・ 放物線の性質（軸と頂点、下に凸）を理解し、基本形（平方完成した形の 2 次関数のグラフがかけられるようにする。 ・ 平方完成が出来るようにして、2 次関数のグラフがかけられるようにする。 ・ グラフを利用して最大・最小の応用問題や、2 次不等式が解けるようにする。
	7		
	8		
	9		
後 期	10	三角比 ・ 三角形 ・ 三角比 ・ 三角比の利用 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角比の拡張 ・ 三角形の面積 ・ 正弦定理・余弦定理 ・ 正弦定理と余弦定理の利便 データの分析 ・ 統計とグラフ ・ 度数分布表とヒストグラム ・ 代表値 ・ データの散らばり ・ 相関関係	・ 三角比の意味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係を使えるようにし、応用問題が解けるようにする。 ・ 一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式を導き、利用できるようにする。
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	三角比、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現したり、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したり、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしたりできる。
評価方法	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考査の結果

学習サポート

1 年次後期で学んだ数学 I について引き続き学習します。2 年次では、1 年次に学んだ内容を利用して「2 次関数」「三角比」「データの分析」について学習します。 1 年次同様授業時間中に演習時間を作ります。また、その時間を利用して自分で問題を解いてもらいます。
--

1年	通年	科学と人間生活	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	科人307 科学と人間生活 新訂版(実教)
自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解し、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			副教材等	特になし
			履修条件	必修履修科目
学習内容				
科学技術の発展や人間生活に関連する物質・熱や光・生命・地球や宇宙の科学について広範囲に学習する。				
評価方法			定期考査・出席状況・授業態度・提出物を総合的に判断して評価する。	
学習上の留意点			教科書、ノートとプリントを中心に進める。欠席しないように気をつけること。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	1章 科学と技術の発展	・科学技術文明が科学によって発展してきたこと、医療の発展と生物学、元素から地球環境までの化学の基本について理解する。
	7	2章 物質の科学 2節 食品と衣料	・身近な衣料材料の性質や用途について理解する。 ・食品中の主な成分の性質について日常生活と関連付けて理解する。
	8 9	3章 生命の科学 1節 生物と光	・光合成と植物の生育について理解する。 ・ヒトの視覚と光、光に対する動物の行動について理解する。
後期	10	4章 光や熱の科学 1節 光の性質とその利用	・光の特性と電磁波の種類と性質およびその応用について理解する。 ・光に関わる技術の進歩により、幅広く利用されていることを学習させる。
	11	5章 宇宙や地球の科学 1節 身近な天体と太陽系における地球	・太陽系の構造とそれを構成する天体について理解する。 ・太陽と人間生活、太陽と月の動き、太陽暦や天体の動きについて理解する。
	12	6章 科学・技術の進歩と人間生活	
	1 2 3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識および技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、調査・実験・観察の技能を習得し、それらを適切に利用することができる。	自然の事物や現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、それらを科学的に考察・分析し、導き出した考えを表現できる。	自然の事物や現象に対して主体的に関わり、それらを探究しようとする科学的態度を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述

学習サポート

全員必修履修2単位の科目です。物理・化学・生物・地学の4分野について、広く学びます。身近な自然現象や身の回りの物質にスポットを当てて授業を展開していきますので、身近な現象に疑問を持てると授業を楽しめると思います。考査の成績だけでなく、普段の授業態度や提出物も成績に含めますので、日頃から積極的な姿勢で授業を受けてください。

1年	通年	体育	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	特になし
<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを深く感じるとともに、体力の向上を図り、健康な学校生活を送る。 安全、公正、協力、責任、参画などの態度を育て、意欲を高める。 			副教材等	特になし
			履修条件	特になし
学習内容				
<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動 バスケットボール ソフトボー バドミントン サッカー 				
評価方法			出席状況、体操服の有無、授業態度等を勘案し、総合的に評価する。	
学習上の留意点			遅刻、欠席、見学をしないこと。体操服を忘れないこと。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> 体操服、体育館シューズを着用させ、安全に留意して行う。 準備運動、補強運動をしっかりと行う。 ルールを守り、クラスの仲間と連携して、楽しくゲームを行う。 準備、片づけを協力して行う。 健康に留意し、授業後のうがい、手洗いを励行する。
	7	バスケットボール ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	8	ソフトボール ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	9	ソフトボール ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
後期	10	バドミントン ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	11	バドミントン ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	12	バドミントン ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	1	サッカー ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	2	サッカー ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	3	サッカー ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ゲームやテストの結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ゲームや審判法、各種目での段階的な練習方法の理解と実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 出席状況

学習サポート

高校1年次の体育では、運動の楽しさや喜びを深く感じるとともに、体力の向上を図り、健康な学校生活を送ることを目標に、上記の4種目を行います。実技科目となりますので、出席状況（欠席・遅刻・見学）・忘れ物がないようにしてください。

1 年	通 年	保健	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	1単位
科目目標			教科書	保体304 現代高等保健体育改訂版（大修館）
<ul style="list-style-type: none"> 個人及び社会生活における健康、安全について理解を深める。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく。 			副教材等	保体304 現代高等保健体育ノート（大修館）
			履修条件	特になし
学習内容				
第1単元 現代社会と健康（詳細は授業計画を参照）				
評価方法			出席状況、忘れ物の有無、授業態度、定期考査等を勘案し、総合的に評価する。	
学習上の留意点			遅刻、欠席をしないこと。教科書、ノートを忘れないこと。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前 期	6	第1単元 現代社会と健康 ・健康の考え方 ・健康の保持増進と疾病の予防 ・精神の健康	・健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解する。	
	7		健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事・運動・休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があることを理解する。	
	8		精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに自己実現に向けて努力することが重要であることを理解する。	
後 期	9	・交通安全 ・応急手当	・交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命の尊重する態度、交通環境の整備などがかわることを理解する。	
	10		・応急手当には、正しい手順や方法を理解していれば、傷害や疾病を軽減できる効果があることを理解する。また、心肺蘇生法には、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。	
	11			
	12			
	1			
	2			
	3			

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	現代社会と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ワークシートの記述 定期考査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ワークシートの記述 定期考査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ワークシートの記述 出席状況・忘れ物の有無

学習サポート	
<p>高校1年次の保健は、必修科目となります。前期では「健康の考え方」「健康の保持増進と疾病の予防」「精神と健康」、後期では「交通安全」「応急手当」を学習します。考査前には、課題を提出してもらるので、しっかりと提出してください。</p>	

1年	通年	工業技術基礎①	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	工業301 工業技術基礎（実教）
工業の各分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術や技能の習得とものづくり精神の育成を目指す。			副教材等	なし（自作プリント）
			履修条件	特になし
学習内容				
生徒を5班に分け、学習系列毎に5つに編成された実習（ショップ）をローテーションしていく。				
評価方法			態度、出席状況、取り組み、課題、レポート等から総合的に判断し評価する。	
学習上の留意点			<ul style="list-style-type: none"> 必ず実習服を着用すること。 使用を誤ると危険な機械もある、担当の先生の説明をよく聞いて取り組むこと。 	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（单元名）	学習のねらい・目標
前期	6	各系列の実習内容	
	7	(1) 旋盤（機械工学系） 段付き丸棒の製作を通して、材料の取り付け・回転切削などの、旋盤の基本的な操作方法を体得する。	
	8	(2) 被覆アーク溶接（機械工学系） タッピング法やブラッシング法によるアークの発生とストレートビードを行う。	
後期	9	(3) 燃料電池と化学実験（エネルギー環境工学系） 地球にやさしいエネルギーとして水素を利用した燃料電池を作成する。 化学変化・化学反応を利用した実験を行う。	
	10		
	11	(4) 文章作成（電気情報工学系） Microsoft社のWordを使用して日本語入力の練習、文書作成を行う。	
	12		
	1	(5) 電気工事（電気情報工学系） 電線の基本的な接続を通して、屋内配線のしくみ、電線・器具・工具の取り扱い方を学ぶ。	
	2		
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	工業の各分野に関する基礎的な技術を身につけ、安全や環境にも配慮し、ものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する知識技能技能を評価する。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を評価する。	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展をはかる創造的、実践的な態度を評価する。
評価方法	作品内容 プリントの取組状況及び 獨創性。	作品・レポート 課題等の内容。 作品の創意工夫。	課題・作品の取組状況と内容。 及び発展学習への取組状況。

学習サポート

実業高校ならではの科目です。教室を離れ、10人程度に分かれて各ショップ場所で授業を受けます。危険な作業も多く、実習服を着用していない場合、安全上の理由から作業は行えません。評価については、各ショップの評価を総合して評価します。しかし、各ショップの評価は、実施時数の1/2以上の出席を必要とします。指導に従い、実習へ真面目に取り組む姿勢や態度が必要です。作品や報告書等の課題提出が必要です。作業上特別な配慮が必要となった場合は、課題作品以外の内容を持って行います。

1年	通年	情報技術基礎	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	工業385 情報技術基礎 新訂版（実教）
社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報技術に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。			副教材等	なし（自作プリント）
			履修条件	特になし
学習内容				
コンピュータの基本構成や、内部ではどのような信号を使って動作しているかを、そのしくみと働きについて学習する。また、プログラムの作成においてその処理に必要な手順についても学習する。				
評価方法			出席状況、ノート提出、課題および定期考査を総合的に評価します。	
学習上の留意点			確認テストを行いますので欠席は大きな減点になります。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	情報化社会の進展とモラルについて	個人情報の保護と管理・知的財産権・情報倫理・セキュリティ等について、その意味を理解する。
	7	コンピュータの基本構成	コンピュータの処理装置や周辺装置について、これらの装置がどのようなしくみと働きをもっているかを理解する。
	8	数値の表し方 ・2進数について	コンピュータの内部では0と1の2つの信号の組み合わせでデータの処理が行われている。その組み合わせに使用される2進数と10進数と16進数について、その関係と数の表し方について理解する。
	9	・16進数について	
後期	10	論理回路の基礎 ・基本論理回路について	基本論理回路について、各回路の仕組み・名称・論理記号・論理式・真理値表を理解する。
	11		
	12	・論理回路の応用	基本論理回路を使用して、多種多様な回路が存在することを確認し、理解する。
	1	プログラムの作り方 ・流れ図の作成	コンピュータに処理を行わせるために必要な手順（アルゴリズム）を正しく指示するために必要な流れ図（フローチャート）の種類と意味を理解する。
	2		
3			

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	情報技術に関する基礎的な知識をもち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての知識を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ノートの記述 課題レポートの評価	学習状況の観察 ノートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 課題レポートの評価

学習サポート

共通の必修科目です。この科目がハードウェア技術やコンピュータシステム技術の基礎になります。指導に従い、情報の考え方を理解し、期限内に課題・ノートなどの提出が必要になります。